

1 「臨時休業中」の対応

(2) 学びの支援と

学校園が楽しみになる工夫



兵庫県マスコットはばタン

家庭と幼稚園生活との関わり(幼稚園等)

入園式の次の日から休園だったので、新入園児や進級児の新しい生活への期待と保護者に、不安や戸惑いの軽減をしてもらえるように、ハガキでのクラスだよりの発行や安心ネットによる発信をすぐに始めた。また、5月のGW明けからは週に1回程度の登園日を設けた。その際は密を避けるため、時間差による戸外での体験活動(玉ねぎ引き、いちご狩り、花の苗植え、夏野菜植え等)を中心に、テラスで絵の具を使ったお絵描きをしたり、絵本の貸し出しを行ったりして、再開後の幼稚園生活が楽しみになるような計画を立てるようにした。帰りには事前に職員が準備した、自宅で取り組める製作キットを配布し、次の登園時に持参してもらうようにした。



イチゴ畑の前でお絵描き



お家で作った
こいのぼり



ハガキでのクラス
だよりの配布



玉ねぎ引き



夏野菜植え



花の苗植

登園児の活動と休園児との心のつながり(幼稚園等)

5歳児クラスで今年度のクラス目標として“思いやりプロジェクト”を実施。プロジェクトの一環としてジャンボひまわりを育てることにした。

植物の栽培は、時期を逃すことができないため、登園している園児で活動を進めることとなった。

屋外で友達と協力して花壇を作り、ミニポットにひまわりの種をまいた。全園児の登園を待って、手作りの大きな花壇に植え替えた。その後、ひまわりの成長を全員で喜び合い、花壇を作ってくれた友達に感謝した。時期を逃さず植物を育てる活動となった。



↑ ひまわりを植えるための花壇を作っている所

手作りこいのぼりの飾り付け(幼稚園等)

4月・5月休園の間、子ども達は幼稚園に遊びに行きたくてもできなかったのが、幼稚園の様子を知らせるおたよりに「先生達は、みんなが幼稚園に来る日を楽しみに待っているよ」のメッセージと共に、手作りこいのぼりを園のフェンスに飾り付けた写真を掲載してポストインした。

後日、その様子を見た園児が「早く幼稚園に行きたい」と話していたことを保護者から聞くことができた。

また、コロナ禍で運動不足解消に園周辺をウォーキングされていた地域の方にも好評で、特に未就園児の子が園の側を通るたびに「こいのぼりだ!」と喜んでくれているのが嬉しかった。

・5色のこいのぼりを作り、フェンスに飾る →



←・離れたところから見た様子

子ども達へのメッセージを込めた掲示物(幼稚園等)

休業中、幼稚園前を通る時に子ども達や保護者の目にとまり、「早く幼稚園に行きたい」という気持ちをもってほしいという思いと、地域への発信として(“みんなで頑張りましょう”という思いも込めて)園だよりを作成し、幼稚園フェンスに掲示した。

同時に、「待っているよ」「早く会いたいよ」というメッセージも届けたいと思い、本来、子ども達と共に作成しようと考えていたこいのぼりの制作物も掲示した。

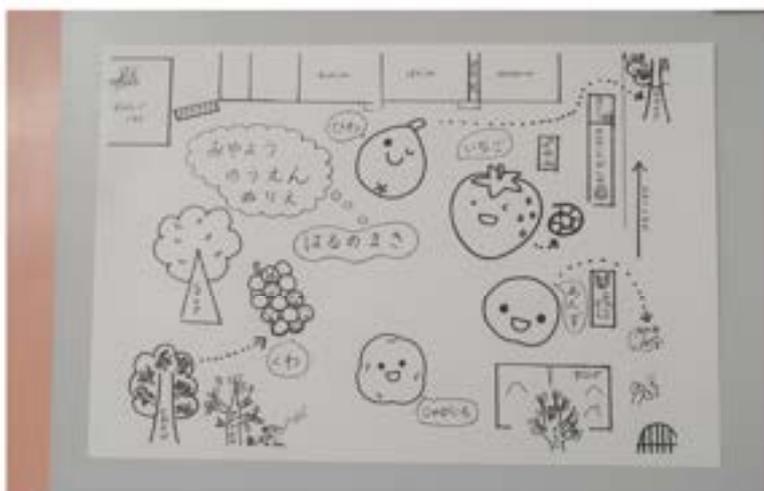
保育再開後に保護者の方から、「嬉しかった」という言葉をいただいた。



←幼稚園からのメッセージ

「みやよのうえん」ぬりえ (幼稚園等)

5月末、臨時休業中ではあったが、分散登園をすることができた。幼稚園には春の自然がいっぱい。通常であれば、子ども達の気づきから遊びを始めていくが、今年度はみやよのうえん地図でも知らせて、子ども達が旬の自然を逃さずに興味を持てるようにした。地図はぬりえになっているのでより意識づけることにもなった。ぬりえは市販でも、インターネットでもたくさんあるが、宮川幼稚園の生活をぬりえにすることに意義を感じた。



↑みやよのうえん 春の巻
幼稚園の収穫物をぬりえ地図にしました

家庭や地域へのメッセージ (幼稚園等)

登園している家庭、自粛生活をしている家庭、地域に向けて「心はつながっているよ」という思いを込めたメッセージボードを掲示したり、園での様子を動画配信したりした。

自粛している家庭へ電話をした際、保護者から「園の前を通るたびに、色々なメッセージが増え、園庭がカラフルになり、早く園に行きたいです！」という声が聞こえてきた。子どもの命を守り切れるのか不安を感じつつも、自粛解除が待ち遠しく、職員みんなで頑張っていこう！という思いが強くなった。そして、考えられるすべての予防対策を職員で話し合い、取組を行い、現在につながっている。



↑「心はひとつ笑顔の花咲く阿弥陀子ども園」
家庭や地域に向けメッセージを掲示



↑職員から子ども達へ動画を配信

出張図書館により、読書に親しむ心を育てる（小・中学校）

多可町図書館からの提案により、外出自粛中の生徒に対し、発達段階を考慮して専門の司書が選りすぐった「おすすめ本」が、分散登校日の学校へ直接届けられた。生徒は、自らの興味関心の赴くままにお目当ての本を捜し、学校に居ながらにして多可町図書館蔵書の貸出しを受けた。



↑ 出張図書館の貸出風景

暇を持て余しがちな臨時休業中の生徒にとって、今回の取組は、読書に親しむ心を育てる大きな機会となったように思う。

臨時休業期間終了後もこの取組は継続しており、主に国語の授業とタイアップしながら、「おすすめ本」を提供してもらっている。これが生徒の好奇心をくすぐるようで、貸出冊数も例年より伸びている。

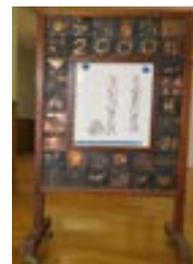
図書室の利用見直し（小・中学校）

4月からの臨時休業中に、児童の読書習慣の維持・定着のため、図書室の本の貸し出しを行った。

まず、あんしんネットのアンケート機能を使って、「図書貸し出しの希望の有無」「来校方法（車での送迎・徒歩等）」の調査を実施した。



↑ 図書カウンター



↑ 休校中の案内板

その後、希望保護者には、来校時間が重ならないよう、メールで来校の日時を伝え、貸し出しを行った。

また、感染予防の面では、本の返却の際は、一定期間別室で保管したうえで、ブックカバーの消毒を行ったり、貸し出しカウンターにアクリル板を設置したりした。

さらに、分散登校が始まってからも、積極的に図書の本の貸し出しを各学級で行った。

感染予防対応策と学びの保障に関する支援（小・中学校）

臨時休業中の取組として、感染予防に係わる対応策と同時に学びの保障に関する支援が必要である。

自宅学習として、2週ごとに課題及び週間計画表を生徒に配布し、指定日に提出するように指導をした。

課題については、授業の予習や前学年の復習を含めた内容とし、意欲的に取り組めるものとなるよう工夫した。

また、週間計画表の記述においても学年に応じた学習時間を確保し、系統的な学びができる取組となるよう努めた。



↑ 課題と週間計画表

学習指導推進部を活用した学習支援（小・中学校）

学習指導推進部を中心に協議して、課題として出す教科やその内容、出し方・量等について共通理解を図った。また、時期によって各学年の課題内容を変更することで、偏りがないように工夫したり、課題の作成についても、専科教員や新学習担当・教科担当教員等が積極的に関わったりすることで、学級担任に過度の負担がかからないよう配慮した。

リモート環境が整備されていなかったため、家庭で使える学習支援サイトを紹介したり、学校再開が近づいてきた時期には、「6月からのくらしのやくそく」を事前に配布したりして、児童への動機づけを行った。



↑ 紹介した学習支援サイト

規則正しい生活と計画的な学習が進められる支援 (小・中学校)

週1回程度の割合で、心のケアも含めた家庭訪問を行い、右記のような日課表(形式は、学年によって異なる)の作成を促し、規則正しい生活と計画的な学習が進められるように支援した。また、振り返りをさせることで、生活の改善を意識させた。1年生については、プリント等を配付し、家庭の協力を得ながら、本読みやひらがな等の習得に努めた。

自己管理が難しい児童には、具体的に個別の課題表を作成し、毎日のチェックを心掛けさせた。

1週間の計画表 6年 組 番 名前()

5/8(金)～5/14(木)の学習のめあて	(例) その日の宿題を集中してやり切る。
5/8(金)～5/14(木)の生活のめあて	(例) リズムをくずさず、毎日同じ時刻に起きたり寝たりする。

毎日のタイムスケジュール

午前	午後	午後
5	0	0
6	1	1
7	2	2
8	3	3
9	4	4
10	5	5
11	6	6
12	7	7
	8	8
	9	9
	10	10
	11	11
	12	12

月日	起床時刻	学習計画(学習する教科と内容)	学習時間	学習の振り返り
5月8日(金)	7時00分	(国語) 国語「笑うか、泣くか」、漢字スキル⑥p2 (社会) 社会「自学ノートに等す」 (理科) 夕食に野菜サラダをつくる(自学) (読書) 家にある本のつづき	2時間	◎
5月9日(土)	7時30分	(国語) 漢字練習スキル①1ページ (理科) おやつにホットケーキをつくる(自学) (読書) 家にある本のつづき(自学) (読書) 家にある本のつづき(1時間15分)	4時間5分	◎
月 日	時 分	()	時間	
月 日	時 分	()	時間	
月 日	時 分	()	時間	
月 日	時 分	()	時間	
月 日	時 分	()	時間	
月 日	時 分	()	時間	
月 日	時 分	()	時間	

5/8～5/14をふり返って

↑ 日課表

学校再開後を見通した日課表の配布 (小・中学校)

本校では、全学年で学級通信に次週の日程と学習内容を掲載しており、休業中も実際の時間割に沿った週時程を計画し、それを日課表として学級通信で配布した。

学校再開後の授業がスムーズに進められるよう、4月からは新学年の予習を課題として設定したり、学級通信で教科書の活用など学習方法についても解説した。

課題配布と回収は木曜日に保護者が来校して行うよう依頼し、必要に応じて面談も行うことで、家庭での様子を把握したり相談を受けたりすることができた。

曜日	1日目(金)	2日目(月)	3日目(水)	4日目(木)
1学期	国語(漢文学習) 空読安全のスタ一の下書き、白い紙に書く。	国語(小説と鑑賞) プリントを配布する。	国語(俳句と俳句) 国語の練習(教科書の86～87に書き込み)	国語(小説と鑑賞) 教科書P14をノートに書き「読み進めたい」
2学期	国語(漢文学習) 空読安全のスタ一の下書き、白い紙に書く。	国語(インテンティブ) 英語を配布する(国語)	国語(俳句と俳句) 教科書「俳句」国語・プリント「春を感じるもの」を配布する。	国語(漢文学習) 国語(小説と鑑賞) 国語(俳句と俳句) 国語(小説と鑑賞) 国語(小説と鑑賞) 国語(小説と鑑賞)
3学期	国語(漢文学習) プリントを配布する。	社会(事件の鑑賞) プリントを配布する。	理科(身のまわりの変化) プリントNo1を配布する。	社会(事件の鑑賞) プリントを配布する。
4学期	国語(小説と鑑賞) プリントを配布する。	国語(漢文学習) 国語(漢文学習) プリントを配布する。	国語(インテンティブ) 国語(漢文学習) プリントを配布する。	国語(漢文学習) プリントを配布する。
5学期	国語(小説と鑑賞) プリントを配布する。	国語(漢文学習) 国語(漢文学習) プリントを配布する。	社会(事件の鑑賞) プリントを配布する。	国語(漢文学習) 国語(漢文学習) プリントを配布する。

↑ 1週間の時程と学習内容(抜粋)

学校再開に向けた取組（小・中学校）

家庭で過ごす児童への学習・生活支援とあわせ、学校再開に向けた取組を進めた。

国・県の指針・指標をもとに学校や児童の実態に合った「河東小学校感染症対策ガイドライン」に沿って学習・生活・健康体育の三部会が対策を話し合い、共通理解を徹底した。

主な取組としては、教科ごとの授業のルールづくり、感染症について子ども達に指導すべきことをまとめたプレゼンテーションづくり、密を避けるための校内施設・設備の工夫などがあげられる。

この取組は、現在に至るまで状況に応じ見直しや新たな工夫を加えながら継続している。



おかえりひたみちっこ ガンバレひたみちっこ（小・中学校）

臨時休業中、学校再開に向けてPTAと協議を重ね、子ども達の心のケアが最重要課題であると確認した。そして、学校再開時には、子ども達が元気に登校してほしいとの願いを込め、グラウンドに、メッセージを描くことになった。



↑ グラウンドメッセージ

保護者と学校職員の協働により、数日かけて整地・測量・下絵作成をおこない、学校再開前日には一日がかりで「おかえりひたみちっこ ガンバレひたみちっこ」と描いた。前例のない取組ではあったが、学校と保護者の絆を深めることができた。学校再開当日、心のこもった大きなメッセージを見た子ども達は大喜び。学校再開に向けた大きなプレゼントとなった。最高のスタートを切った子ども達は、心のストレスを感じることなく、心身ともに健康な毎日を送ることができている。

英語専科教員による課題作成 (小・中学校)

市内の英語専科教員がワークシェアの考えのもと、小学生を対象とする家庭学習用の教材を作成した。児童の発達段階に対応できる内容となるよう、ALTとも教材内容のすり合わせや意見交換等を行った。基本的な筆運び、興味のある国調べ、児童らが関心をもっている歌の英語訳の歌詞といった教材、またNHK for School等の参考となる番組サイト等をQRコードをつけて紹介したプリントを作成した。全学校の教員が活用できるよう市内の共通フォルダにアップしている。スピーチ練習のプリントには、保護者のサインをもうけ家庭学習の協力を保護者に求めるようにした。児童が教科書等を活用し自主学習のできるような工夫をした結果、学校再開後には「英語で歌えるようになったよ」との声、調べたことを資料添付して提出する姿が見られた。



↑ 休校中の学習プリントに調べた資料を添付して提出